

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人 小羊学園

〒431-1304

静岡県浜松市細江町中川7440-1

電話：053-437-0826 FAX：053-437-0849

E-mail kohituji@imix.or.jp

H.P http://www.imix.or.jp/kohituji/

発行人：稲松 義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30円

2006年6月20日

第 284 号

コンプライアンス (法遵守)の二面性

理事長 稲松 義人

家族をはじめ、その会社の周辺で生活を支えている多くの人たちを不安に陥れることになるとしたら、法律違反でないのだから問題はないとは言えないと思えるのです。

お金が儲かることは悪いことではないが、お金儲けや勢力拡大が目標になってしまうことは、やはり社会人としての本来の生き方ではないと思うのですが、いかがでしょうか。

そうは言いながらも、自分では処理しきれないほど多くの情報が飛び交い、めまぐるしく変化していく社会の中で、どうしたら得をするだろうか、あるいは損をしないだろうかと知恵をめぐらせる習慣は、私たちの日常生活にすっかり染み付いてしまっているのではないかと思えます。例示はしませんが、私自身も思い当たることがいくつもあります。そんな中、行き過ぎて身勝手にならないように、歯止めとして社会的ルールがあるのだらうと思えます。ですから、社会的ルールの意義を理解し、自己中心的発想を自己統制する必要があるのでと思えます。

しかし、現実にはルールどおりにいかないこともよくあります。小羊学園でも、制度上では受け入れられないような利用希望や問い合わせが度々あります。直接ケアをする職員には負担が大きく、制度上得られる報酬では全く採算が合わず、型どおりの実践では応じきれないことを変則な対応で工夫す

ることで乗り切ってきたことは、これまでにもいくつもあります。

そのようなときに、法律や制度を盾にしてお断りすることができるともいれませんが、「お気の毒ですが、制度上、今の私たちには対応することができません。」「何とか対応をしたいのですが、それは行政から認められていません。」これも「コンプライアンス」ということができるのかと思えます。

実際には、社会福祉の現場では、制度の隙間で、支援が得にくい事情にある人たちは少なくありません。ルールがあるためにかえって対応できないケースに出会うと、制度の矛盾を感じ、やりきれない気持ちになります。

「コンプライアンス」が強調される一方で「規制緩和」も進められます。どちらに転んでも、自己中心的な人は自分の損得でものごとを判断するのでしょうか。

本来自由というのは、ルール違反でなければ、好き勝手によいということではありません。社会の中で役割を担うことにおいて主体性を尊重するということだと思えます。いつの時代も同じ社会でみんなが生きていかなければならないのだとすると、規制緩和の社会は、ボランティア精神が文化となる社会でなければならぬでしょう。そして、コンプライアンスは、自己中心性を捨てきれない自分への謙虚さの現れであると思えます。

小羊学園（児童寮・青年寮）の 日中活動のようす

小羊学園は入所施設です。そこで寝食を共にすることからは、居住施設であることが中心のようですが、実際には、居住の場であると同時に、活動の場所でもあります。障害者自立支援法では、二つの機能を分けて位置づける制度とされるようです。今回は、児童寮・青年寮の日中活動のグループをご紹介します。

太陽の下で 元氣ハツラツ！

青年寮Aクラス 高橋 怜子

青年寮Aクラスは、畑、シユーズキーパーづくり、染物を活動として行なっています。畑では今、夏野菜がすくすくと育っています。ナス、トマト、きゅうり、ピーマンを畑に行く度に収穫しています。その場で試食することもあり、とれたての野菜のおいしさを味わっています。「畑でのびのびと過ごす」ことをモットーに、利用者の皆さんには草取り、肥料運び、収穫を手伝っ

て頂いています。六月の中旬にはジャガイモの収穫がたくさんあり、小羊学園の玄関先で販売させて頂きました。あつという間に完売となり、みんなで育てた甲斐があったと嬉しく思いました。シユーズキーパーづくりは長年行っている活動です。利用者さんには細かく砕いた竹炭を内袋に入れていってもらっています。分かり易い作業なので、集中して取り組むことができます。また、竹炭を割ることも職員と一緒にやっています。毎年、バザーや細江のふれあい広場に商品を出品し、好評を頂いています。

染物は、昨年の冬頃から活動として取り組んでいます。「ざくろ染め」というものを行っており、ハンカチサイズの布を染めて作品を作っています。輪ゴムやヒモで模様を作り、世界でたった一つのオリジナルハンカチが出来上がります。まだ、新しい取り組みで手探りの段階ですが、皆さんが楽しく活動できるように工夫をしていきたいです。

汗かいて 楽しく活動を

青年寮Bクラス 太田 恵輔

自閉的傾向の人たちが中心メンバーであるこのクラスは、月曜日から金曜日までプログラムをできるだけ固定し、作業の流れも一定にすることで生活に

見通しがたて易い状況をつくり、心身の安定を図ることを心掛けています。午前の散歩は、施設の外に出て体を動かすことで発散し、季節を肌で感じてもらえるように働きかけています。

午後の活動は、空き缶つぶし・楮（こうぞ）和紙作り等、曜日ごとで設定し、施設から離れた場所に活動の場を設けることで、活動する雰囲気高め活動意欲をも高めています。

年に四回、クラス外出を計画し、社会に触れることで様々な経験を養っていく機会を提供しています。

今年度の新たな取り組みとして、前年度まで火曜日に「楮採取十缶回収」を行っていましたが「楮採取」のみとし、又、水曜日に「缶の仕分け」を行っていましたが「フリー」とし余暇的な



▶取ってきた楮を叩いて繊維にします

ものを取り入れる事で、クラスの活動の幅を広げることを試みています。更に、楮和紙作りの活動時間を一時間とし、余った時間で余暇的活動が出来るようにしています。

季節を感じながら

青年寮Cクラス 中西 洋子

活動は主に廃品回収を行なっています。長年行なっている作業のため、利用者の方一人ひとりが廃品の持ち方を自ら考えて工夫して運ぶことが出来ています。そのため、往復して廃品を運ぼうとする積極性や自主性を、利用者の方の体力やペースに合わせて引き出していきたいです。また、近隣のご家庭と施設のご協力で廃品回収させて頂いており、これからも地域の方とのふれあいを大切にしていきたいと思えます。

外で行なう力仕事であるため、利用者の健康面に配慮し、夏休み期間回収をお休みにしたり、残暑厳しい時期には、車を使用するなど無理のないよう支援しています。夏以外は、リヤカーを使用していることや、みんなで廃品を回収するという同じ目的を持って行なうことで、利用者の協力する気持ち促しています。実際の活動時、ある一人の利用者が運んでいた廃品のひもがほどけ落ちてしまった際、違うメン

バーの一人が拾って運んでいる姿も見られます。

雨天時や室内での活動としてステンシルをして楽しんでいます。職員と一対一で関わりながら行ない、その季節折々にあった型をステンシルしたり、筆以外の道具の活用や自由に彩ることを提供し、一人ひとりの特徴を生かしステンシルの形式だけでなく各々で楽しめられるようにしています。寮内の装飾やコースター、はがきに彩り母の日などにお便りを贈ったりもしました。

個性あふれる活動に

青年寮Dクラス 森 映子

Dクラスは年間を通しての発作、身体機能の変化が著しい利用者がいらっしゃることから、健康面と安全面に対して、配慮が最も重要とされるクラスです。そこで室内活動を中心に活動内容を提供しつつ、散歩などの運動や、気分転換が欠かせない利用者に対して、屋外活動をバランスよくとり入れるよう考えています。種目は【ステンシル】【折り染め】【園芸】【音楽】といった活動を中心に行っています。

【ステンシル】では、寮内に飾るカレンダー作りをしています。日付や曜日・季節の絵柄をステンシルして頂き、楽しみの行事、仲間の誕生日などを字

で記入して頂いています。

【折り染め】では和紙を各自得意な折方で折って頂き、好きな色で染めています。各自で染めた和紙を利用して装飾を作り、『Dクラスギャラリー』という食堂に設置したスペースに定期的に展示をしています。

【園芸】では、自然との触れ合いを楽しみ、【音楽】では職員と一緒に楽しく演奏し、【音楽】では職員と一緒に楽しんで表現しながら、自発的な発声や運動を引き出しています。

今後もより利用者にとって過ごしやすい『活動の場』を提供できるように配慮と努力をしていきます。そしてどの活動でも笑い声が絶えない、楽しい時間にしていきたいと考えています。



▲活動時間は、個別の関わりのできる楽しみなひとときです

地域に活動の場を求めつつ

児童寮A・Bクラス 内山 晴康

児童寮A・Bクラスは、児童寮の利用者と歩みホーム利用者、一二人で活動しています。主な作業活動は「ビーズ・折染め製品製作」「アルミ缶リサイクル」の二本立てです。手先の巧緻性と集中力が必要なビーズ・折染め製品製作では手先を見つめ、真剣なまなざしで取り組む皆さんの姿、個性豊かな作品を生む感性とセンスには毎回驚かされます。完成した製品は、法人内施設の行事や近隣のバザーなどの場を借りて販売しています。

リサイクル作業では、今年度より学園の支援者のご厚意により、車で一分ほどのところの空いている作業場（工場跡）を貸していただけることになり、園外作業所として活用しています。生活と作業の場をわけることで、作業に専念する環境が整ってきているように感じています。

その他、美化活動・余暇活動も実施していますが、どんな活動においても利用者の皆さんが楽しく意欲を持って参加できることがまず第一です。活動を通じて児童寮の生活の充実感につながれば、こんなにうれしいことはありません。



▲児童寮Cクラスの作業の様子

笑顔の中に 真剣な眼差しも

本宮 早奈映

児童寮Cクラスは、クラスメンバー10名・職員八名で構成されています。主な活動内容は、散歩、ハガキ・カレンダーづくり、マッサージ、ウエス、畑です。

重度の知的障がいと身体障がい併せ持つ方が多いので、常に職員がメンバーをサポートする形での活動となりますが、少人数で深みのある関わりができる貴重な時間として活動を大切にしています。

どの活動も長年続けており、ハガキ



▲はがき作りに取り組むヤスオさん

づくりに実習の方等が入ると「私が見せるから！」と言いたげな表情で、自らハガキの材料を型に流し込む作業を積極的に行なう方もいらっしゃいます。

同じことの繰り返しの中にも、よりメンバーが意欲的に活動に参加でき、楽しみが増えるよう、昨年度からカレンダーづくりを始めるなど新しいことにもチャレンジしています。

今まで、生活する空間と、活動を行う空間を分けることが難しい活動もありましたが、今年度から寮外で活動を行うことを増やしました。児童寮から離れて活動を行うことで、皆の笑顔の中に「活動頑張るぞ！」と真剣な眼差しも増えてきた様な：気がします。

支える会だより

小羊学園移転改築のための募金のお願い

創立40周年を機会に、かねてより計画をしております小羊学園児童寮・青年寮の移転改築事業をぜひ実現させたいと願っています。

現在の計画では、総事業費約8億5千万円のうち、自己資金は約4億5千万円です。自分たちで調達できないところは借入金を予定していますが、返済のことを考えると少しでも多くの当初資金が望まれます。行政のご理解が得られれば、すぐにも取り掛かりたいと願っています。ぜひご理解いただき、皆様のお心をお寄せいただければ幸いです。

力のない私たちにとっては大きな計画ですが、次の世代にも小羊学園の確かな歩みを伝えるため、一心に祈りつつその実現のために力を合わせて参りたいと思います。(稲松)

(口座名義)「小羊学園を支える会」

郵便振替口座 00890-4-45415
 リソナ銀行浜松支店 (普通) 040005
 静岡銀行細江支店 (普通) 043483

つのがえ読者拡大のお願い

小羊学園は、知的ハンディのある子どもたち(人たち)の命の豊かさを多くの人たちと共有することで、地域社会に福祉の心を伝えることを願っています。そのために、より多くの皆様につのがえをお読みいただき、小羊学園の活動を知っていただきたいと思っています。

ご紹介いただけるお方がありましたら、下記にご一報ください。

(連絡先)

〒431-1304 浜松市細江町中川 7440-1 小羊学園

FAX 053-437-0849

Eメール kohituji@imix.or.jp

担当：鈴木昌代

2006年度 小羊学園を支える会 寄付金報告

月	件	(円)
4月	140	1,606,962
5月	23	1,189,000
6月	30	901,680
累計	183	3,697,642

皆様のご支援に心より御礼申し上げます

◆看護師さんを探しています

重症心身障害児施設「つばさ静岡」(静岡市葵区城北)では、障がいのある人たちの医療的ケアを支えてくださる看護師さんが足りなくて困っています。関心のある方、お心当たりのある方、ぜひご連絡ください。

また、浜松地区の知的障害関係施設でも、日勤パートの看護師さんを探しています。こちらもご連絡お待ちしています。

つばさ静岡 担当：羽山(はやま)

電話(〇五四)二四九二八三〇

小羊学園 担当：雨宮(あめみや)

電話(〇五三)四三七〇八二六

編集後記

今回のつのがえを編集し、最近の小羊学園での生活の様子、活動の様子をご紹介します。記事が少なくなっていたことを感じていました。また、一度に七グループの紹介をしましたので、メンバー一人ひとりの表情まで、感じていただくことができなかったかな、と編集担当として反省しています。紙面を通しての限られた中ですが、小羊学園の輪の中で命を輝かせている知的ハンディのある人たちの出会いを、少しでも感じていただけるような機会にしたいと思います。

いよいよ夏本番です。皆様のご健康を心よりお祈りいたします。(I)